

1. 調査の背景

金沢大学留学生センターは、本学における留学生交流の推進に寄与することを目的として、外国人留学生及び海外留学を希望する本学の学生に必要な教育及び指導助言等を行う学内共同教育研究施設として、1995年4月に設置された¹。本学にはそれ以前にも外国人留学生が在籍しており、彼らに対する日本語教育は補講という形で行われていた。留学生センター設置後は、文部省（現文部科学省）からの国費外国人留学生（研究留学生及び教員研修留学生）を対象とした、日本での研究活動に必要な日本語能力を習得するための日本語研修コースを中心に、全学向け日本語補講、教養教育の日本語科目とともに、本学の留学生への日本語教育を行ってきた。その後、1998年秋学期に、金沢大学短期留学プログラム(Kanazawa University Student Exchange Program, 以下 KUSEP)が始まり、このプログラムの学生への日本語教育を留学生センターが提供することになった。当時は、短期プログラムのための全く新しい日本語コースを開講するには人的および財政的な余裕がなかったため、従来の日本語補講を拡大発展させていくことで対応することになった。このような経緯で作られたのが、総合日本語コース（現 総合日本語プログラム）である。1998年秋学期から始まった総合日本語コースは、初級から上級まで7レベルを設定し、読む、書く、聞く、話すの四技能を総合的に学ぶ総合クラスを中心に日本語クラスを運営してきた。2010年度春学期からは金沢大学国際化戦略の一環として留学生数を大幅に増やすことになったため、総合日本語プログラムは縮小路線から拡大路線に方向転換し、もともと多様であった受講生が更に増加、多様化することになった。現在、総合日本語プログラムでは、（１）日本語補講として受講する全学の留学生（正規生・非正規生）、（２）学部留学生、（３）日本語・日本文化研修プログラム生、（４）KUSEP生²、（５）日本語研修コース生、（６）日韓理工系学部留学生コース生、（７）セメスタープログラム生などを受け入れている。留学生センター所属の（３）～（７）の学生は、総合日本語プログラムでの日本語学習が必修となっている。またこれ以外にも、総合日本語プログラムでの学習が正規単位として認められる各部局所属の短期交換留学生も受講している（図3）³。

総合日本語プログラムは、始まってから約15年が経ち、その間、クラス編成や使用教材は随時見直しがなされてきたが、主教材や授業の内容、進め方についてはプログラム開始当時からほとんど変わっていなかった。しかしながら、上述のように、本学の留学生受け入れ状況や、学習者の属性も変化してきており、提供する日本語教育の内容を見直し、コース改編の必要性が高まってきた。そのための基礎資料として、留学生がどのような目的で日本語を学んでいるか、どのような日本語教育を求めているかを明らかにするために、金沢大学に在籍する全ての留学生を対象に日本語学習に関するアンケート調査を行うことにした。

¹ 金沢大学国際機構留学生センターホームページより（<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/jp/about/>）

² 2013年秋学期からは、KUSEPから派生して、理工系専攻の学生向けの短期留学プログラムとしてKUESTが始まった。

³ 2014年春学期より、人間社会学域および人間社会環境研究科に所属する特別聴講学生に対しても正規科目として位置づけられ、単位が認定されるようになった。

<参考資料>

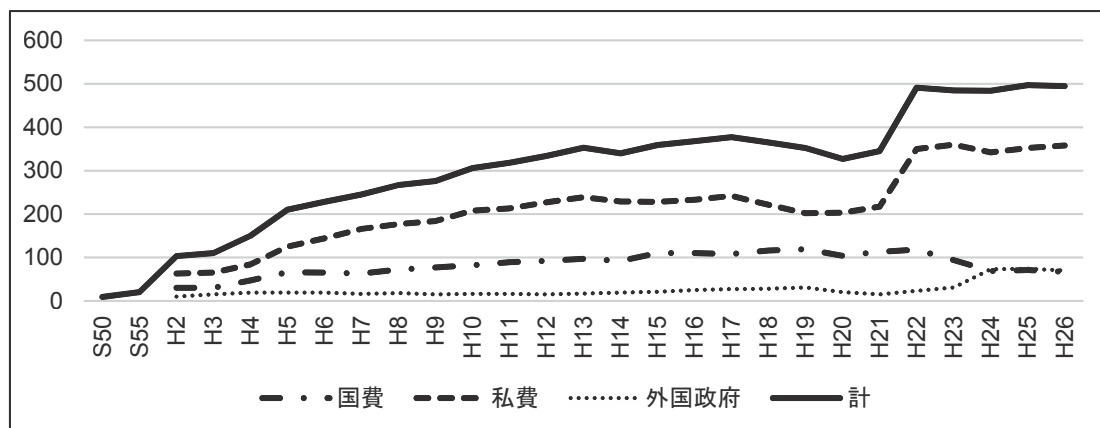


図1 金沢大学における外国人留学生数の推移¹

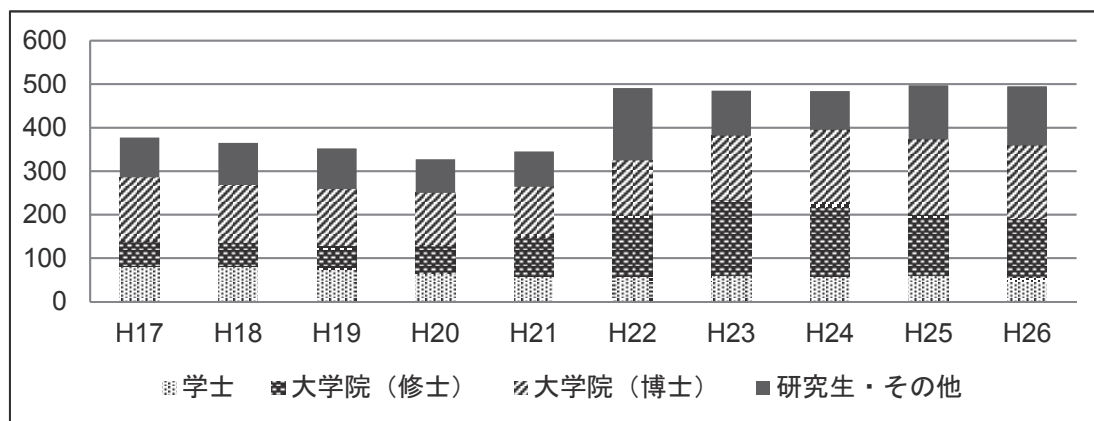


図2 金沢大学における外国人留学生数の推移(身分別)²

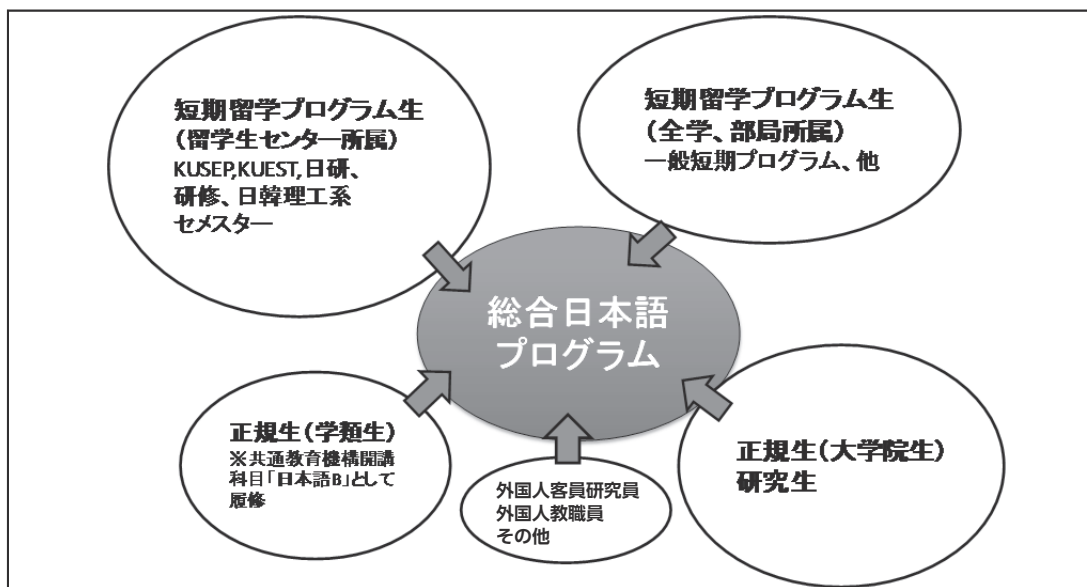


図3 総合日本語プログラム受講者の構成

¹ 金沢大学概要 2014(<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/outline/gaiyo/2014/>) を元に作成

² 金沢大学概要 2014(<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/outline/gaiyo/2014/>) を元に作成